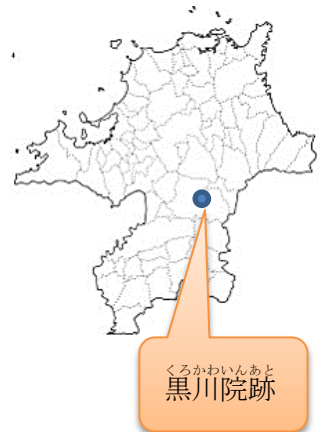


令和2年3月31日
令和元年度最終号

編集・発行

九州歴史資料館

電話 0942-75-9575



くろかわいんあと
黒川院跡

黒川院跡から稀少な陶磁器出土

災害復旧に伴う

砂防ダム建設地から

九州歴史資料館が昨年朝倉市黒川で発掘調査を行った「黒川院跡」から出土した遺物に、全国的にも稀少な輸入陶磁器の優品が含まれていることが、このたび判明した。



出土した中国製青磁（元代）

山間の集落である朝倉市黒川は、梨の名産地であり、夏には川沿いに蛍が乱舞することも知られてきた。しかし、ここは平成29年（二〇一七）七月の九州北部豪雨で甚大な被害を受けた地区の一つであり、二年半が経過した現在でも一部の道路が

不通であるが、復旧工事は進んでいる。今回の発掘調査は一級河川佐田川の支流北小路川（馬場谷川）に築堤する砂防ダム建設工事に先立って実施された。

現在は山里といった印象の黒川であるが、室町時代の建武元年（一三三四）から約二五〇年間、当時最盛期だった彦山（近世から英彦山）の座主（最高位の僧）の居所「黒川院」があった場所とされ「オタテ（御館）」「オシタンヤシキ（御下屋敷）」「カモンサカ（下門坂）」等の地名伝承が残る。



調査中の黒川院跡（昨年十月）



砂防ダムも完成間近

だ。オシタンヤシキ地区周辺の現在の馬場集落の一角に重要な遺構が眠っているものと考えられる。（小川泰樹記者）

南淋寺での調査も終了

同じく災害復旧に伴う砂防ダム建設関係の南淋寺（朝倉市宮野）の発掘調査では、主に近世の歴代住職を葬った墓地が確認された。南淋寺は平安時代の薬師如来坐像（重文）が本尊で知られる。現住職は「ほとんど見たこともなかった。墓標から時代が追えて興味深い。発見されたものは境内に移設してご供養する」と語る。



今回の調査では、多量の日常生活の土器に混じって青磁・白磁等の輸入陶磁器が出土しており、中でも上写真の酒会壺（しゅかいこ 左・下）双耳壺（右）は国内での出土が極めて稀な優品で、当時の彦山の栄華を示すものと言える。調査地点は谷部分にあたり、区画溝など黒川院時代の遺構を検出しているが、今回の貴重な遺物に直接結びつくものではなさそう